

日の出町エコセメント製造工場の 環境への影響調査 —市民による環境調査—

たまあじさいの会 ●濱田 光一

1. 問題の経過と活動の動機

—自らの命・健康・環境は自ら守る—

東京都日の出町のごみ処分場が埋め立てを開始して8年ほど経った1992年に、第一処分場（谷戸沢処分場）のゴムシートの破損と汚水漏れの疑いが住民から提起されたが、責任を負うべき都・町・組合は独自の調査を行い、これを否認した。

また、第二処分場（ニツ塚処分場）建設が日の出町玉の内地区に決まる中で、住民は、前例として、第一処分場の汚染の実態調査を要求したが全面拒否をされた。住民は、東京都公害審査会の調停を申請し、数回

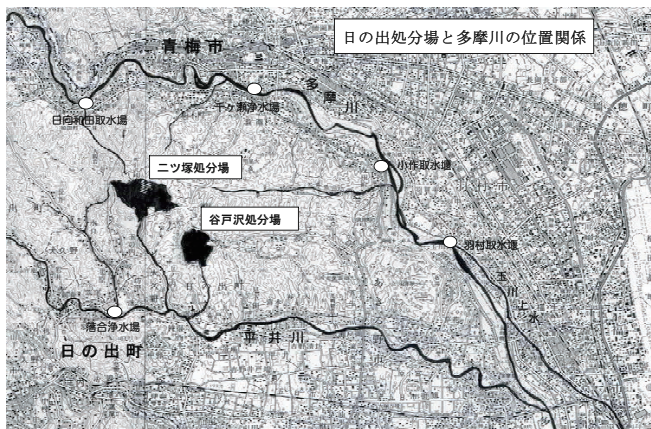
の公開審査後の1994年に、調停は不調のまま打ち切りになった。この間、都が主導する「一般廃棄物広域処分組合」は、日の出町や地元自治会との同意・協定を進めていた。このような状況の中で、私たちは1994年にニツ塚処分場内にトラスト地を取得した。

この年、東京地裁八王子支部は、証拠取り調べのためデータの提示命令を組合に出すが、翌年組合は、地裁の命令に応じず、住民に間接強制金を支払うことを開始する。

1995年、住民は「谷戸沢処分場汚水漏れ調査、谷戸沢処分場への搬入禁止及び第二処分場建設差し止め」を求め東京地裁に提訴する。しかし、工事は開始された。



エコセメント工場



日の出処分場と多摩川の位置関係

■ たまあじさいの会

日の出町には、東京都三多摩地区約400万人の排出する膨大な量のゴミ最終処分場が2つある。1984年以来23年間埋め立てが行われ、公害の発生源として水・大気・土壌など周辺環境に影響を与え、住民のガン発症の異常な高さなど、人々の健康や命にも深刻な影響を与えている。また、二つの処分場は、都民の水源地である多摩川の上流にあり、地下水汚染から水源汚染の深刻な事態も想定できる。1998年、自らの命と環境は自ら守ろうと「たまあじさいの会」を立ち上げ活動を開始した。第1次活動は、「ゴミ焼却灰の飛散の実態の究明」に取り組み、地域、行政などへの公表・公開をおこない、公害発生の抑止力としての成果を得た。現在は、第2次活動「エコセメント製造工場の環境への影響調査」に専門家や研究者の協力を得ながら取り組んでいる。URL <http://www011.upp.so-net.ne.jp/tamaaji/>



●助成研究テーマ

日の出町ゴミ焼却灰のエコセメント化工場の環境影響調査

●助成金額

2008年 50万円

1. 背景

1) なぜ日の出町が選ばれたのか

- ・財政的に逼迫していた日の出町、与野党全議員が受け入れ賛成
- ・行政の決定に反対住民が少ないという地縁、血縁の強い風土
- ・第一次産業（地場産業としての林業）の衰退による地域経済の沈下
- ・経済的価値の少なくなった山林など的高額での土地買収が容易
- ・沢を塞ぎ止めるダム型管理処分場に適した地形

2) 行政における日の出町処分場の役割

- ・東洋一の規模の管理型廃棄物最終処分場としての国と都のモデル
- ・行政による本格的なアセスへの取り組みのモデルとその後各地での適用
- ・トラスト地の取用方法や手続きの試行モデル（日の出取用後、手続きの改悪）
- ・最終処分場の延命策としての焼却灰のセメント化のモデル試行

2. 関連施設の概要

1) 谷戸沢処分場・・・14年間で搬入埋立終了

- ・面積45.3 ha（開発面積31.7 ha、残存緑地13.6 ha）
- ・埋立容量380万m³（廃棄物260万m³、覆土120万m³）
- ・埋立期間1984年～1998年
- ・建設工事費（用地買収費、補償費も含む）120億円

2) ニツ塚処分場・・・*現在埋立中

- ・面積59.1 ha（埋立中面積18.4 ha、残存緑地25.8 ha、エコセメント施設4.6 ha）
- ・埋立容量予定370万m³（廃棄物250万m³、覆土120万m³）
- ・埋立期間1998年～ *3期に分けて埋め立て、現在2期に不燃物埋め立て中
- ・建設工事費（用地買収費、補償費も含む）500億円

3) エコセメント製造施設

- ・面積4.6 ha（アセスでのニツ塚処分場残存緑地に建設）
- ・規模 焼却灰処理300t/日、エコセメント生産430t/日
- ・稼働 2006年～ 年間310日、24時間、20年稼働予定
- ・事業費 建設費272億円、維持管理費32億円/年

3. 問題点

- ・建設ありきの説明会、アセスなど住民の声無視の強引な行政手続き
- ・黒瀬川構造帯に位置するなど処分場の地質的な脆弱さ
- ・1.5mmのゴムシートによる廃棄物の埋め立て、閉じ込めの構造的欠陥
- ・操業開始後発生した地下水汚染、焼却灰の飛散などに対する事実否認
- ・高額税金投入、情報非公開、不透明な地域振興費などの運営体質

この頃、谷戸沢処分場の隣接地区でのガン死が多発しており住民は不安に思っていた。

トラスト地は、1996年土地物件調査作成の混乱の中、日の出町が代理署名を行い、11回の取用委員会の公開審理を終了させ、1999年に取用採決、2000年に住民の不安に何も答えないうまま、東京都によるトラスト地の行政代執行となった。

ゴミ焼却灰のセメント化事業については、裁判・トラスト地強制取用などの渦中の1997年に、事業者側が、処分組合主催でシンポジウム「これからのゴミ処理行政のあり方を考える」を開催し、一部のゴミ問題を考える市民団体などを取り込み表面化させた。1998年には、シンポジウム「どう使う、どう残す。ニツ塚最終処分場」、1999年にシンポジウム「エコセメント

でゴミ処理をかえる」を開催した。2000年には、エコセメント事業基本計画が発表され、日の出町が同意のもと、2001年にエコセメントアセスを都に提出、2003年にエコセメント事業の民間運営委託、建設工事開始を経て、2006年にエコセメント施設の本格稼働が開始された。

このような状況の中で、2003年に住民は、「人権侵害に基づくエコセメント化施設建設差し止め」を東京地裁に提訴した。

日の出町・青梅市などの住民は、処分場隣接の集落のガン死の多発、日の出町内の土壌や大気のダイオキシン値の異常な高さなどに不安を感じていた。しかし、都・町・組合は「環境に特段の問題はない」「絶対安心」などを繰り返すだけであった。私たちは「自らの

有害物質の排出推定量 *エコセメント差し止め裁判資料より

- ・水銀排出量 14.9 kg/年
- ・ばいじん排出量 7.3 kg/年
- ・窒素酸化物排出量 52 t/年
- ・水分排出量 156,000 t/年

使用エネルギー量 *組合資料より

- ・A重油使用量 22,300 kl/年
- ・灯油使用量 744 kl/年
- ・電力使用量 40,110,000 kwh/年

エネルギー使用に伴う大気への排出量 *裁判資料より

- ・発熱量 2,463 億 kcal/年
- ・水分発生量 2,586 t/年
- ・二酸化炭素発生量 63,070 t/年



土壌調査



エコセメント工場周辺土壌調査資料採取地点

命・健康・環境は自ら守る」しかないということを感じて、1998年に、『一市民による環境調査―「たまあじさいの会」』を発足させ活動を開始した。

1998年から2002年にかけて、第一次調査活動として「ゴミ焼却灰の飛散の実態究明」をテーマに、調査、記録、公表、普及に取り組んだ。

2003年より「エコセメント工場の環境汚染」の調査、記録、公表などに取り組む現在に至っている。この間の活動に高木基金の助成を受けることができた。

2. 処分場・エコセメント工場の汚染と調査活動

1) 既に潜んでいる環境汚染の追跡調査

谷戸沢処分場には1984年～1998年の14年間、東京都多摩地区の約380万人（当時）の家庭や事業所から排出された一般ゴミの焼却灰と不燃物が埋められた。この間、ゴミに含まれる膨大な量の有害な重金属や化学物質も埋め立てられた。

そして現在、それらの有害物質による周辺土壌や地下水の汚染が始まっている。この汚染の実態を継続的な水質調査などを通して記録・公表する活動に取り組んでいる。

2) 現在進行している環境汚染の調査

2006年より本格稼働したエコセメント工場は、年間310日、24時間、20年間操業予定である。膨大なエネルギー、水道水、多額な税金を使い、有害物質を大気に放出しながら環境汚染を進行させている。「微量・長期間・複合」汚染が既に周辺植物などに出始めている。この汚染の実態の観察・調査・記録・公表などに取り組み、工場操業の監視活動を通して公害発生を抑

止していきたい。

3) 今後予測できる汚染

日の出町周辺の環境汚染は勿論のこと、東京都三多摩地域や都全体への環境汚染の影響が近い将来に懸念される。

巨大な2つの処分場とエコセメントは、都民の水道水の羽村取水口の上流約5kmの多摩川の水源地に作られ、地下水汚染から多摩川の水汚染が予測できる。

また、エコセメントは、製造過程で完全にゴミ焼却灰の有害物質が除去出来るわけではない。エコセメントに含有している有害物質が、コンクリートとして使用され劣化する中で、各地域で土壌や大気に放出され汚染していくことも想定できる。

3. 成果と課題

多摩地区400万人の日々のゴミの最終処分を、1.3万人の小さな日の出町が請け負われている。汚染の直接の影響を受けている日の出町や青梅市の私たち住民は、汚染が日々進んでいく中で生活していくことを余儀なくされている。また、この地の幼児や胎児、そしてこれから生まれてくる命は、未来へ向けてさらに

エコセメント工場周辺のNO2調査 2009年3月1日～

	3月1日	3月2日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日
O-1	0.015	0.020	0.018	0.017	0.015	0.015	0.017
O-2	0.011	0.013	0.011	0.015	0.011	0.011	0.015
O-3	0.011	0.018	0.015	0.013	0.011	0.008	0.015
O-4	0.020	0.020	0.018	0.021	0.013	0.024	0.024
O-5	0.020	0.024	0.024	0.024	0.015	0.018	0.021
O-6	0.011	0.013	0.017	0.018	0.013	0.013	0.017
O-7	0.015	0.013	0.017	0.008	0.013	0.013	0.018
H-1	0.015	0.011	0.015	0.021	0.017	0.013	0.018
H-2	0.018	0.022	0.022	0.021	0.021	0.018	0.026
H-3	0.015	0.018	0.020	0.021	0.018	0.013	0.026
H-4	0.018	0.026	0.025	0.026	0.018	0.017	0.024
H-5	0.011	0.018	0.018	0.017	0.015	0.018	0.018
H-6	0.017	0.018	0.024	0.020	0.017	0.020	0.024
H-7	0.015	0.013	0.011	0.022	0.013	0.011	0.018
H-8	0.015	0.011	0.011	0.018	0.013	0.013	0.015

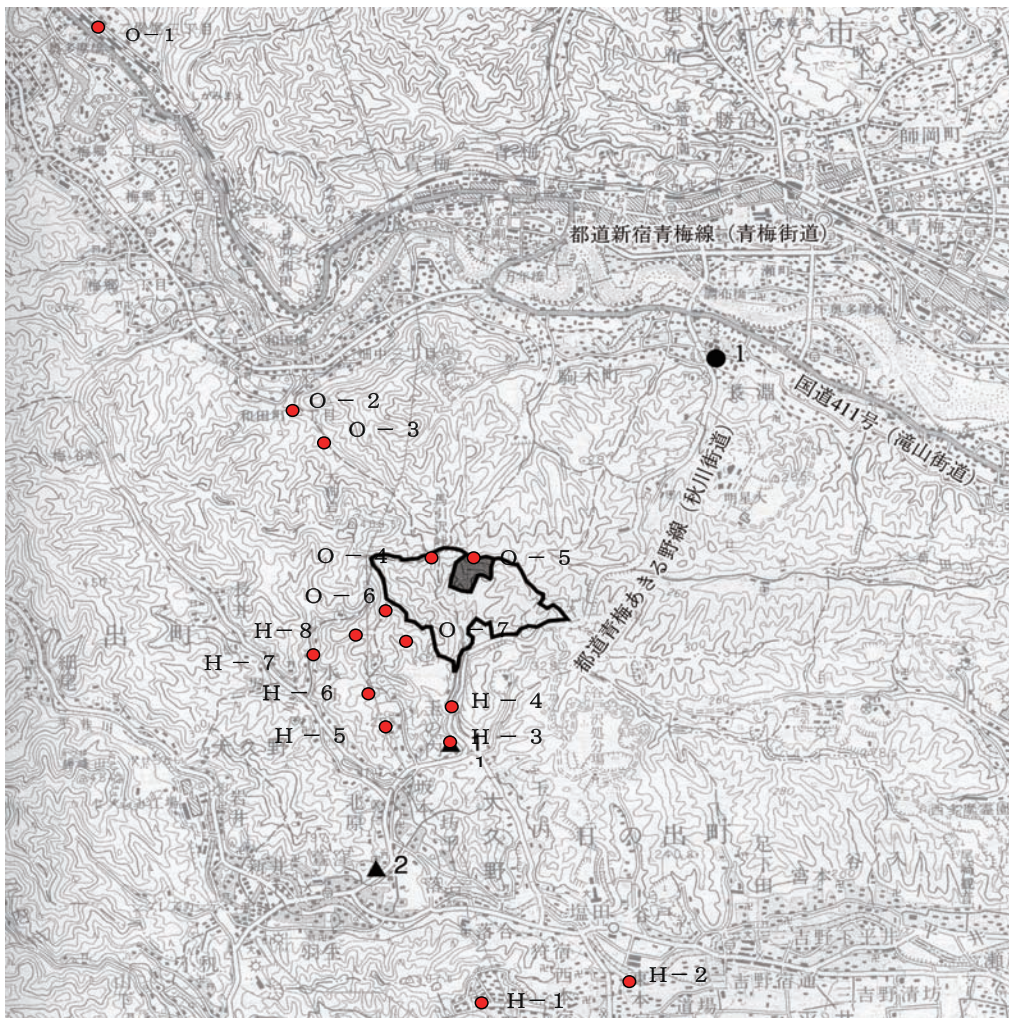
窒素酸化物がエコセメント工場から大量に排出されていることは公開されたデータから明らかである。

NO2が施設からの距離、天候、局地風などにより周辺にどのように拡散されているのかを目的として調査を行った。調査の結果、数値的に見て問題ない数値である。しかし市街地であるO-1・H-1・H-2などと比較して人々の生活圏から遠く離れ、標高300メートル以上の山間地で測定されたものとの差がほとんどないことは問題である。

今回の調査のもう一つの目的である工場から排出される大気経由の汚染物質の局地風による動向であるが、わずかながら各地点の特徴が表れていた。この初冬に再度、連続調査を行い排ガスの周辺への動向とNO2以外の汚染物質の調査地点を選定したい。



一斉水質調査



NO2測定ポイント 2009年3月1日～

深刻な環境汚染という不条理な影響を受けざるを得ないことに胸が痛む。

このような状況の中で、私たち市民・生活者の視点での科学的な調査・監視・記録・公表・学習・伝達活動は、公害発生の抑止力・地域への警鐘と喚起・若い世代への伝達、後世への記録などにささやかな成果も果たしている。具体的には、1) 私たちの焼却灰飛散の実態発表後、組合は散水などをして焼却灰の埋め立て時に飛散を抑えることに迫られ、その結果、日の出町の大気と松葉のダイオキシン値は十分の一に低下したこと、2) 情報公開がなされない処分場、エコセメント工場の実態と、派生している問題を監視することによって情報を得ながら、裁判の場などで問い質してきたこと、3) 処分組合からの多額の税金を注ぎ込んだエコ利用の組合のニュースなどによる情報操作のために、大多数の住民や多くのマスコミが日の出町のゴミ処分場問題は過去の出来事として無関心に流されていく中で、これは、現在も進行しており、未来に向けてさらに拡大していく問題であることの注意を喚起し、警鐘を鳴らしてきたこと、などが、私たちの取り組みの成果である。そして今後も大切な役割であることを認識している。

「自らの命・健康・環境は自ら守る」と活動を開始して12年目になる。「現場に神が宿る」と水俣の問題に取り組んだ医師が語ったとのことだが、私たちも、現場での調査、観察を大切に、次の3点を柱として、さらに活動の質を高めていきたいと思う。

- ・ 科学的で効果的な調査、広報、記録活動
- ・ 次世代への活動の伝達と継承
- ・ 市民による科学調査活動の組織化と実践

4. 私達の願い

世界の大型ゴミ焼却炉の7割、1500炉がある日本では、温暖化やCO2排出の大きな発生源としての各自治体のゴミ焼却炉がある。しかし行政もマスコミも一向に問題として取り上げず、是認している。その背景には、ゴミ施設の建設や運営を巡る政・官・業・学の癒着、談合、利権が、原発と同様に、このゴミ政策の裏に存在している。

焼却炉から排気される化学物質や重金属は、深刻な大気汚染を引き起こし、人々の体と心を蝕んで深刻な人間破壊の大きな要因となっている。しかし、この国は抜本的な政策変更をせず、経済最優先のもとに大量生産・大量消費・大量廃棄、そして焼却という、環境にも資源保護にも未来世代にも大きな負荷を強いる政策を取り続けている。

巨大な権力を背景にして動いているゴミ政策の中で、エコセメント工場の環境影響調査と共に、地域ごとに住民の目に見え、住民が政策決定に参加できる処理方法、ごみ焼却の約5割を占める生ゴミの資源化などの提案も行い、活動が公害発生の抑止力となり、この国のゴミ政策変革の一助になればと願い取り組んでいる。

私たちの調査活動の概要

●基本的な方針

- 1) 市民・生活者としての視点からの活動
- 2) 専門家・研究者の協力や助言を得ながらの科学的な調査活動
- 3) 調査活動などの成果や結果の公開・公表

●2008年度の活動の内容

〈調査活動〉*参加者延べ210名

- 1 植物調査 6回実施 参加者 36名
調査内容
・ 馬引き沢及び尾根道の植物の実態観察
・ 馬引き沢に自生するキヨスミイトゴケの実態調査と定点での苔の調査
・ 尾根道でのコデラート法 (5m×5mの20マス) 樹木と林床植生調査
・ 谷戸沢処分場 (埋め立て終了) 周辺の植物調査
- 2 野鳥調査 11回実施 参加者 51名
調査内容
・ 毎月一度、午前の時間帯に馬引き沢及び尾根道を歩きラインセンサス法での確認により種と個体数の調査
- 3 水生昆虫及び水質調査 4回実施 参加者 23名
調査内容
・ 四季に一度ずつ、処分場周辺の沢や川の4定点の種と個体数の調査
・ 水温、電気伝導度、PH、NO2、CODの水質調査

- 4 土壌分析調査 1回実施 参加者 2名
 調査内容
 ・年一度、4回目の調査。処分場周辺の4定点の土壌を5点混合法でカドミウム、鉛、亜鉛、銅、ニッケル、クロム、砒素、アンチモンを大学研究室に分析調査委託
- 5 NO2調査 参加者 27名
 調査内容
 ・大気汚染測定運動東京連絡会のカプセル簡易法によるNO2の測定
 ・工場周辺、日の出町、青梅市14ポイントで7日間連続の大気採取
- 6 水質調査 *他団体と「市民による水質調査」共催 参加者 36名
 調査内容
 ・谷戸沢処分場周辺の民家井戸水カドミウム・クロム・銅・鉛の分析を大学研究室に調査依頼
 ・他団体との共催で2つの処分場周辺の電気伝導度などの継続的な調査
- 7 大気中水銀分析調査 参加者 17名
 調査内容
 ・大気を吸引して、ガス状水銀濃度、粒子状水銀濃度の測定
 ・処分場西側で大気を10日間吸引、大学の研究室に送り分析調査依頼
- 8 雨水中水銀分析調査 参加者 11名
 調査内容
 ・工場下方約200mの雨水を採水し、ガス状水銀濃度、粒子状水銀濃度を測定
 ・雨水を23日間採水、大学の研究室に送り分析調査依頼
- 9 処分場地質巡検調査 参加者 3名
 調査内容
 ・(財)深田地質研究所の日の出町巡検に参加
 ・処分場及び周辺の地質の学習及び把握
- 10 VOC(揮発性有機化合物)調査事前調査 参加者 4名
 VOC分析研究者とエコセメント工場周辺の見学と調査方法の事前打ち合わせ

〈広報・学習・交流活動〉*参加者延べ509名

活動に科学性や普遍性を持たせるために、処分場・環境問題の学習や他団体との交流、地域の方々に処分場問題や環境問題を伝え、学ぶ中で、ゴミ問題の解決について共に考え、ゴミ処分場の見学や学習などを通して、多くの市民・学生などにゴミ問題・環境・文化の問題として、フィールドワークの場としても活用してもらった。

- ・職業能力開発総合大学公開講座(水質分析方法学習)参加 参加者 15名
- ・第23回市民環境問題講演会 参加者 40名
 「ゴミ焼却・エコセメントについて考える」
 講師 広瀬立成氏 元町田氏ゴミゼロ市民会議代表、早稲田大学教授
- ・高木基金「処分場・ごみ処理施設問題公開研究会」..... (当会から4名が参加)
- ・東京学芸大学出前講義(自然地理学)..... 学生130名(当会から4名)
- ・東京学芸大学生 現地案内と説明 学生10名(当会から6名)
- ・東京国際情報大学下羽ゼミ 現地見学と説明 学生11名(当会から7名)
- ・東京農大・法政大・武蔵工大学生 現地案内と説明 学生4名(当会から3名)
- ・早稲田大学学生 現地案内と説明 学生4名(当会から2名)
- ・法政大学市ヶ谷校舎(ヒートアイランド調査聞き取り) (当会から2名)
- ・高木基金セミナー参加 (当会から2名)
- ・文教大学湘南校舎出前講義(環境政策論・ケーススタディ)..... 学生66名(当会から3名)
- ・日本大学経済学部出前講義(都市環境論)..... 学生80名(当会から5名)
- ・「パタゴニア」第一回ツール会議参加 (当会から1名)
- ・「パタゴニア」渋谷店訪問 (当会から2名)
- ・VOC つくば市会議参加 (当会から2名)
- ・「パタゴニア」社員 現地案内と説明 10名(当会から15名)
- ・第24回市民環境問題講演会 *他団体と共催 56名
 「原体験が出发点・一人称で語る・原則が明瞭」
 講師 木内孝氏(株)イースクエア代表取締役会長・21世紀臨調運営委員
- ・八丈島ゴミ処分場問題住民団体 現地案内と説明、情報交換 2名(当会から4名)
- ・青梅市民への処分場・エコセメント問題説明会 7名(当会から2名)